

第11表 年齢別人口に関する指数及び性比

昭和50(1975)年～平成27(2015)年

[単位：人、% ()の数値は構成比]

	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少人口指数	老年人口指数	従属人口指数	老年化指数	性比
昭和50年 (1975年)	12,197 (24.3)	33,516 (66.7)	4,504 (9.0)	36.4	13.4	49.8	36.9	94.5
昭和55年 (1980年)	11,656 (23.8)	32,058 (65.4)	5,306 (10.8)	36.4	16.6	52.9	45.5	95.7
昭和60年 (1985年)	10,324 (21.6)	31,476 (65.9)	5,998 (12.5)	32.8	19.1	51.9	58.1	94.4
平成2年 (1990年)	8,329 (18.2)	30,531 (66.8)	6,879 (15.0)	27.3	22.5	49.8	82.6	93.5
平成7年 (1995年)	6,856 (15.7)	28,705 (65.7)	8,128 (18.6)	23.9	28.3	52.2	118.6	93.8
平成12年 (2000年)	5,829 (14.1)	26,191 (63.5)	9,251 (22.4)	22.3	35.3	57.6	158.7	93.1
平成17年 (2005年)	5,826 (12.9)	27,011 (59.8)	12,351 (27.3)	21.6	45.7	67.3	212.0	91.4
平成22年 (2010年)	5,089 (12.0)	24,275 (57.1)	13,178 (31.0)	21.0	54.3	75.3	259.0	91.8
平成27年 (2015年)	4,551 (11.4)	21,334 (53.3)	14,107 (35.3)	21.3	66.1	87.5	310.0	91.7

○年少人口=0～14歳

○生産年齢人口=15～64歳

○老年人口=65歳以上

○性比=女100人につき男の割合

◇ 年少人口指数 = $\frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$ ※ 将来の労働力の大きさを示す

◇ 老年人口指数 = $\frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$ ※ 労働力の高齢化の程度を示す

◇ 従属人口指数 = $\frac{\text{年少人口}+\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$ ※ 生産年齢人口の扶養程度を示す

◇ 老年化指数 = $\frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$ ※ 人口の老齢化の程度を示す